

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	楽器レッスン4	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	必要に応じて譜面、資料等を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	上野 一郎		実務経験の有無・職種	有・プロベーンスト	
学習目的					
この科目を受講する学生は、ベースという楽器の特性や演奏方法を理解し、基本的なリズムやビートなどのベーンストにとって重要な概念の理解とその演奏能力の向上、音楽理論の基礎概念の理解を中心に授業を進める。 他方でサウンドクリエイターとして作曲におけるベーンラインというものの理解を深め、自身の制作楽曲に学んだ技術や知識を反映できるようにすることを目的とする。					
到達目標					
演奏技術の習得が目標である。習得した技術を用いてあらゆるスタイルの楽曲に対してベーンラインを作り出す能力を引き出せるようにする。 昨今のベーンプレイヤーの奏法は多岐に渡るために、奏法分析も行いそれぞれのスタイルを習得し、またオリジナル楽曲にも反映できるようにする。 同時にリズムの概念、ハーモニーなど音楽理論の見地からベースという楽器のポジションを把握し楽器を弾けるようにする。 楽器の歴史や代表的なプレイヤーのフレーズなども習得する。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、譜面によるエクササイズと用意した練習曲を中心に進めていく。 バックイングトラックを使用し楽曲に対してのアプローチを変化させスタイルごとの定番フレーズを学んでいく。 オリジナルベーンラインの作成をし実際にそれを既存の楽曲に当てはめるトレーニングも行っていく。				
注意点	この授業では、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ベーンラインを作る上で必要な知識		ダイアトニックコードについて		
2回	理論理式の応用①		ダイアトニックコードをアルペジオなどいろいろなスタイルで弾く		
3回	理論理式の応用②		ダイアトニックコードとスケールの関係		
4回	理論理式の応用③		ダイアトニックコードの進行を感じながら弾く		
5回	リズムとパルスのトレーニング①		8ビート感覚を感じながら弾く		
6回	リズムとパルスのトレーニング②		正確な演奏を目指す		
7回	ジャンルアレンジベーンライン①		ブルースのコード進行の理解		
8回	ジャンルアレンジベーンライン②		ブルーススケールと調性についての理解 シャッフルビートについての理解		
9回	ジャンルアレンジベーンライン③		ビート感覚を大事にブルースを弾く		
10回	ビートアレンジベーンライン①		コード進行とシャッフルビートを正確に弾く		
11回	ビートアレンジベーンライン②		16ビートのリズムの構成、シンコペーションの理解		
12回	ビートアレンジベーンライン③		16ビートフレーズの正確な演奏		
13回	ビートアレンジベーンライン④		16ビートフレーズとダウンビートの関係の把握、正確な演奏		
14回	特別テクニック		アルペジオのフレーズについての理解		
15回	後期まとめ		全体を正確に演奏し切る集中力		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	楽器レッスン4	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	内田 充		実務経験の有無・職種	有・プロギタリスト	
学習目的					
この科目を受講する学生は、ギターという楽器により強く興味を持ち、ギターを使って様々な楽曲や演奏スタイルに触れることで、ギタリストの視線から作曲・アレンジ力を養っていくことを目的とする。					
到達目標					
ギタリストとして必要な一般的な知識とテクニックを習得すると共に、ジャンルの壁を超えた作曲やアレンジ力も養う。 基本的なフォームからコードヴォイスイングの押さえ方、左右の手の機能を把握しパターンを習得していく。 前期は基礎的なフィンガリングを主にコードヴォイスイングを学んでいくことを目標とする。 後期はスケール、ソロフレーズ等のメロディーワークを主としたレッスンによりインプロビゼーションの方法を習得することを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、チューニングの仕方、コードワークとメロディワーク、簡単なリズムトレーニングなどについて触れて行く。 エレクトリックギターとアコースティックギターの（学生の）それぞれの特性を最大限に打ち出せる技術の習得をする。 ギターパートのアレンジにも触れ、楽曲のスタイルによりどのようなパターンを構築すればいいかを理解できる能力を育成する。				
注意点	この授業では、理由のない遅刻・欠席は認めない。また学生間、講師と学生とのコミュニケーション力向上のために、なるべく自己から発言する機会を増やして行く。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	コードワーク⑤		バレーコード、シンコペーション その1		
2回	コードワーク⑥		バレーコード、シンコペーション その2		
3回	コードワーク⑦		Funk系16ビートなどジャンル感のあるコンピング その1		
4回	コードワーク⑧		Funk系16ビートなどジャンル感のあるコンピング その2		
5回	メロディワーク⑥		コードリフの練習 その1		
6回	メロディワーク⑦		コードリフの練習 その2		
7回	メロディワーク⑧		有名曲のソロフレーズをコピーしてみよう その1		
8回	メロディワーク⑨		有名曲のソロフレーズをコピーしてみよう その2		
9回	メロディワーク⑩		有名曲のソロフレーズをコピーしてみよう その3		
10回	スケール練習③		マイナーペンタトニックスケール応用編（ブルーノート）その1		
11回	スケール練習④		マイナーペンタトニックスケール応用編（ブルーノート）その2		
12回	簡単なインプロビゼーション③		コードトーン、マイナーペンタトニックスケールを用いる その1		
13回	簡単なインプロビゼーション④		コードトーン、マイナーペンタトニックスケールを用いる その2		
14回	簡単なインプロビゼーション⑤		コードトーン、マイナーペンタトニックスケールを用いる その3		
15回	まとめ		全体のまとめ		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	楽器レッスン4	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	授業内でプリント、譜面等を配布				
担当教員情報					
担当教員	下田武男		実務経験の有無・職種	有・プロドラマー	
学習目的					
ドラムという楽器の役割を知り、作曲をする上でのリズムのアイディアに役立てる。 リズムパターンの習得によりオリジナル楽曲制作に反映できるように細部にわたってのパターンを理解する。 DAWにおけるドラムパート制作のアイディアを育成することを目的とする。					
到達目標					
様々なスタイルのドラムのアプローチ方法を体得する。ロック、ポップスにとどまらず、シンプルなものでもジャズやラテンのリズムを叩けるようにする。 各ドラムパートの機能・役割を理解しそれぞれのスタイルに適応したリズムパターンを習得する。このことにより自身の作品に反映させること、また制作におけるドラムパターン入力が支障なく滑らかに行えるようになることを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	ドラミングの基本となるスティックコントロールやペダルワークから始め、譜面や音源を併用しながら実際のプレイを覚えていく。バックキングトラックを使い、他パートとの連動性、解離性などを体感していく。様々なジャンルパターンを習得していく。				
注意点	この授業では細かいテクニックよりもドラムの楽曲に与えるインパクトを第一に考えて、シンプルでも特徴的なパターンを覚えていきます。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	0%			
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	20%	個人個人のスキルアップの度合いで評価する		
	平常点	80%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ロックドラミング		バスドラムのアタック音、スネアのオープンリムショットを出す		
2回	ボサノバ、サンバ		ブラジルのリズムパターンの基礎的なものを覚える		
3回	カリブソ、ソカ		カリブ海系のリズムパターンを覚える		
4回	レゲエ、スカ		カリブ海系のリズムパターンを覚える。その②		
5回	サルサ系ドラミング		マンボ、チャチャ、ルンバ、ソンゴのリズムパターンを覚える		
6回	12/8系のリズム		ロックバラードなどのパターンを覚える		
7回	カントリー系リズム		トレイン・ビートなどのパターンを覚える		
8回	シャッフル系のドラミング		普通のシャッフル、ハーフタイム・シャッフルのパターンを覚える		
9回	16分系のドラミング		フュージョンドラミングやファンクドラミングを覚える		
10回	ジャズ系のドラミング		簡単なスウィングフィールでレガート&コンピング		
11回	キメの多い曲		決め事の多い中でリズムを刻んでいく		
12回	トランジション曲		二つ以上の異なるフィールを1曲内で演奏していく		
13回	変拍子の曲		5拍子、7拍子の理解		
14回	よりハイレベルなテクニック		ルーディメンタルなフレーズ、ポリリズムミックなフレーズ		
15回	まとめ		一年間のまとめ		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	楽器レッスン4	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	授業内でプリント、譜面等を配布				
担当教員情報					
担当教員	杉山泰		実務経験の有無・職種	有 音楽講師、鍵盤講師、参考書出版	
学習目的					
この科目を受講する学生は、鍵盤楽器におけるあらゆる基礎となる知識について学び、特に曲作りにおいて重要な役割を担うものです。と同時に、音楽においてだけでなく、実社会において全ての事象には学ぶことや、考えること、思考の必要性の重視も説いていく事を目的とします。					
到達目標					
この科目では、学生が鍵盤楽器の奏法を学ぶ事と、曲づくり、アレンジにおいて必要なことを鍵盤を使って学び実践して行く事を目標とします。基礎的なトレーニングから始め、音楽理論も加味したうえでキーボードの技術習得とともに作曲・編曲においても必要な知識を得ることを目標とします。サウンド面での分析も行い、ジャンル別による音色、奏法等細部にわたり作曲に反映できるように理解していきます。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、鍵盤楽器を使って様々な音楽的素養と、演奏技術、作曲、アレンジ技術を身につける。 ハーモニー、リズムにおいてもパターンを習得し、あらゆる音楽に対応するキーボード技術を習得します。 DAWにおける制作にもキーボードを使った入力を行うため、そのためのスキルを上げていくための知識・技術を習得していきます。				
注意点	この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	実践形式での授業内で理解度を把握するので、実施しない。		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するためにたまに実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	鍵盤の押さえ方の基本		鍵盤の押さえ方の基本を学び、脱力法を習得する		
2回	四分打ちの基本		伴奏の基本である、四分打ちを学ぶ		
3回	四分打ちの応用		四分打ちの応用パターンの作り方を学ぶ		
4回	アルペジオの基本		アルペジオ奏法の基本を学ぶ		
5回	アルペジオと伴奏への応用		アルペジオ奏法を実践的なアプローチをどう生かすかの応用		
6回	八分打ちとロックでの奏法		スクエアな楽曲、主にロックなテイストの曲での伴奏法		
7回	16ビートのノリと伴奏法1		16ビートのノリでの伴奏とグルーヴの基本		
8回	回ハネたビートでのアプローチ		ハネたビートでの伴奏法とノリの基本を学ぶ		
9回	スクエアとバウンス		ハネてない伴奏とハネてる伴奏の違いを学ぶ		
10回	さまざまなジャンル別の奏法①		ジャンル別の伴奏の違いについて学ぶ		
11回	さまざまなジャンル別の奏法②		ジャンル別の伴奏の違いについて学ぶ		
12回	コードとメロディーの仕組み①		コードとメロディーの関係性と、双方について		
13回	コードとメロディーの仕組み②		コードとメロディーの関係性と、双方について		
14回	奏法のおさらい		実演の総復習		
15回	まとめ		総復習		